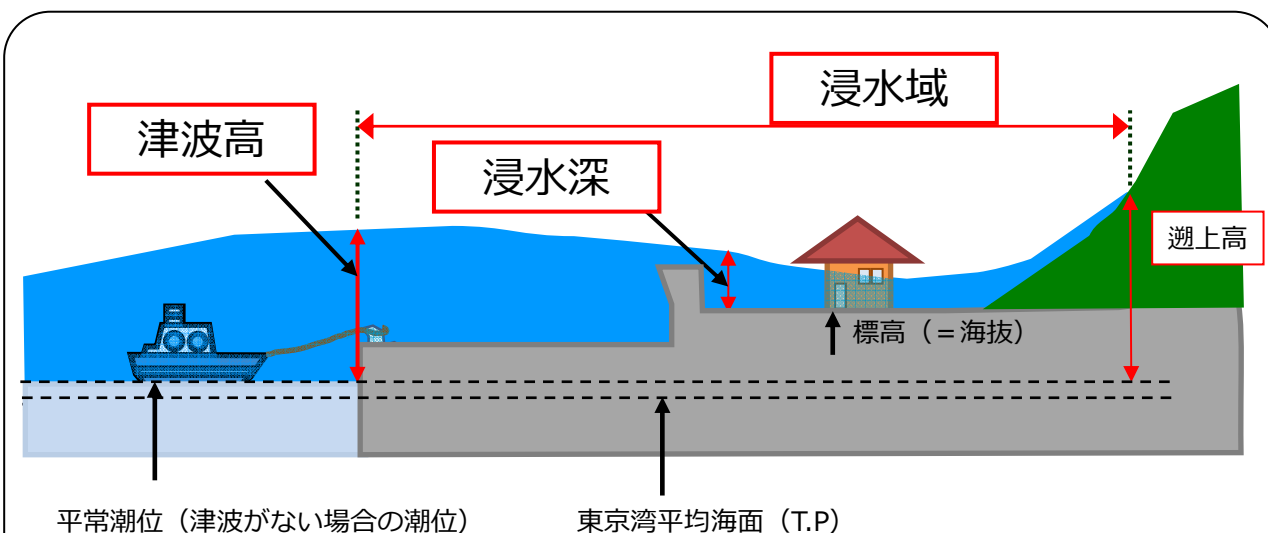


# 6-1 説明

## (1) 基本用語について



用語	定義	
津波高	平常潮位（津波がない場合の潮位）と、津波により上昇した海面の高さとの差	
浸水深	浸水域の水面から地面までの深さ	
参考	平常潮位(※)	津波がない場合の潮位
	東京湾平均海面	東京湾のある代表地点における平常潮位の海面。標高の基準となる。
	標高(海拔)	東京湾平均海面（TP）からの地表面の高さ
	遡上高	海岸から内陸へあがった津波が到達した地点の標高と平常潮位の高さの差。

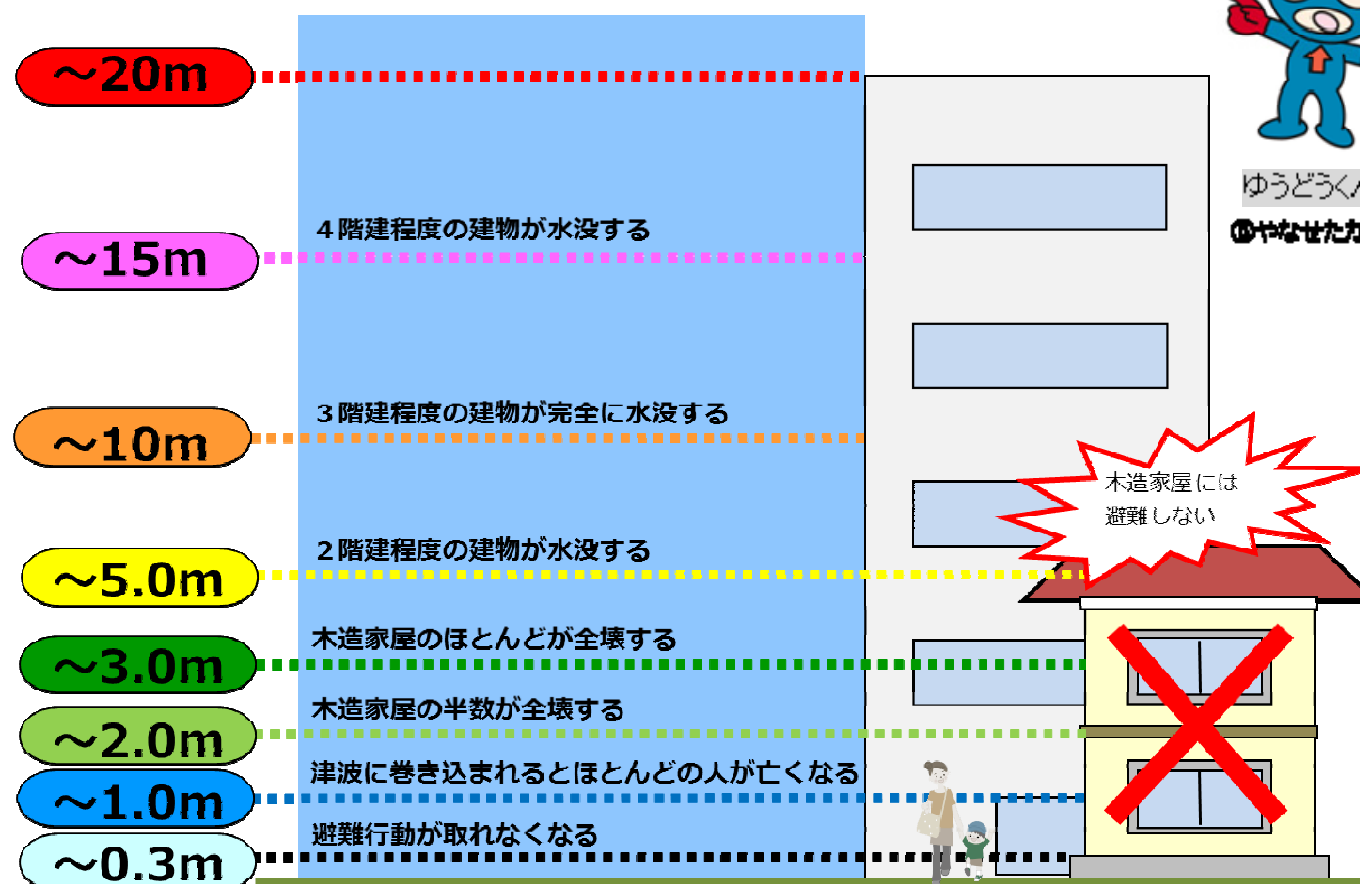
※今回の津波浸水予測では、平常潮位を高知県の朔望平均満潮位とした。

## (2) 浸水深の目安

自分の命を守るために、最善を尽くすんだぞー  
少しでも安全な場所に避難だぞー



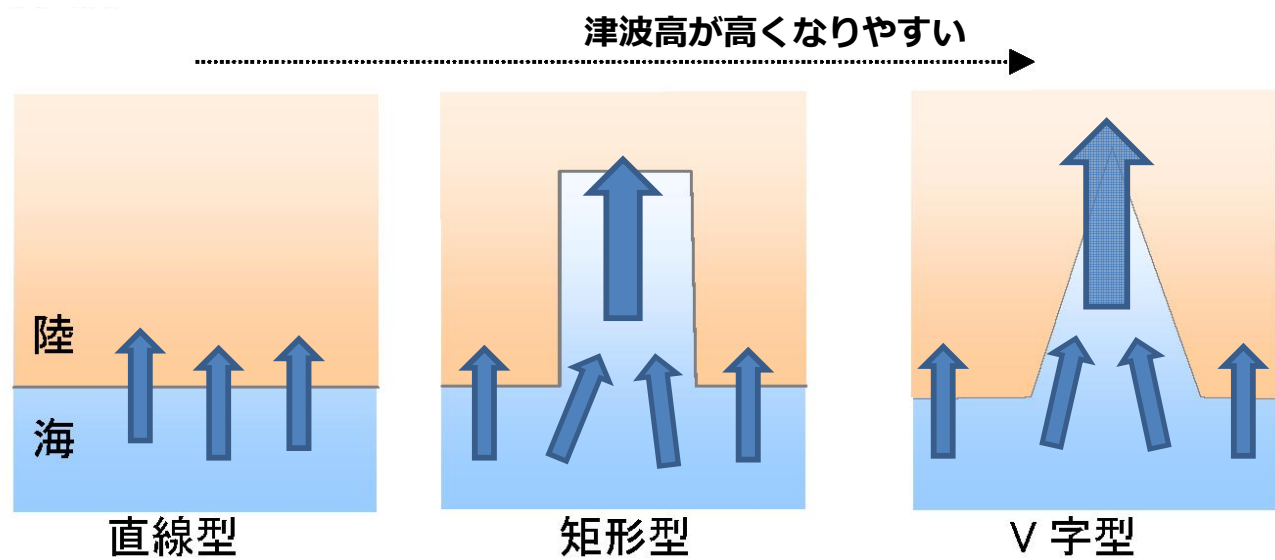
ゆうどうくん  
やなせたかし



浸水深	区分としての根拠
15m	4階建て程度の建物（あるいは4階部分まで）が水没することとなる。
10m	「3階建て程度の建物（あるいは3階部分まで）が完全に水没する。」※
5m	「5m以上になると、2階建ての建物（あるいは2階部分まで）が水没する。」※
3m	「3m以上になると木造家屋のほとんどが全壊する。」※
2m	「2m以上になると、木造家屋の半数が全壊する。」※
1m	「1m以上になると、津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる。」※ 大人の腰がつかる程度である。
0.3m	「0.3m以上になると、避難行動がとれなく（動くことができなく）なる。」※ 子どものひざが浸かる程度である。

※ 内閣府（防災担当）、南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）追加資料（津波の推計結果の活用にあたっての留意点等、2012.8.29）

(3) 海岸線の形と津波高の傾向 (平面図)



※出典：津波の基礎知識 (日本気象協会)



たいさくくん  
©やなせたかし

海岸線の形には直線型、矩形型、V字型、色々あるんだね



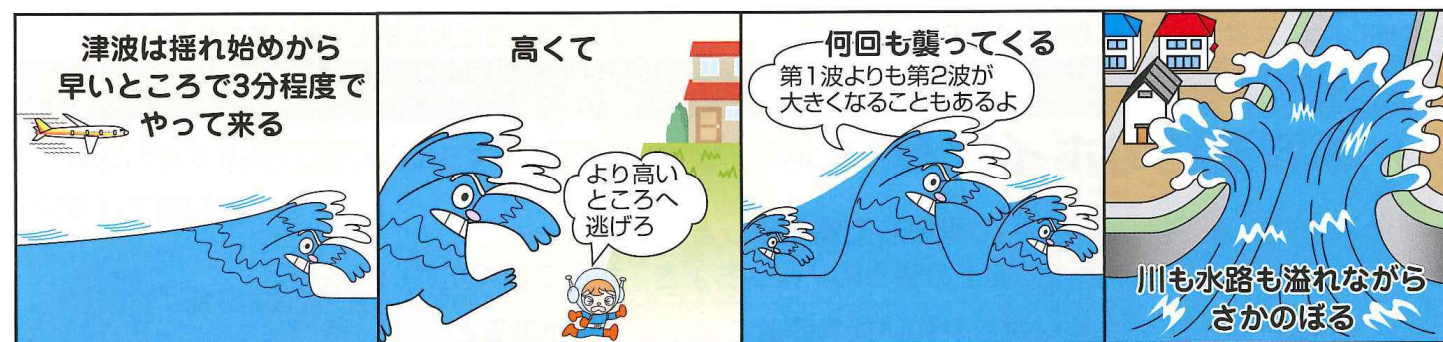
トラフ博士  
©やなせたかし

一般に直線型からV字型になるほど海岸線の津波高が高くなるんじゃ。東北地方にはリアス式海岸と言われるV字型や矩形型の湾が多く、東日本大震災で津波の被害が多くなる原因になったんじゃ。あと、岬の先端でも津波が高くなることにも注意が必要じゃ！

(4) 津波浸水深時間変化図の見方

場所ごとに、どんな津波が時間を追って来るかをまとめたグラフです。このグラフを見ると、「どのくらいの間、津波から避難をしなければならないか」や、「どのくらいの時間で津波が来て、どのくらいの時間で津波が引く」と想定されているかの目安が分かるほか、

- ① 第1波が最大ではない可能性がある
  - ② 津波は繰り返し押し寄せてくる
  - ③ 地震発生から時間がたってから津波が来ることもある
- ということも分かります。



さらに下の図に示すように、津波の計算では、時間の経過とともに精度が低くなる傾向にあります。したがって、時間が長くなればなるほど、高さの変動の幅が大きくなると覚えておく必要があります。

また、最大クラスの津波でなくても、高知県沿岸に近いところで地震が発生した場合はこれよりも早く津波が到達することもあります。

